この会議に引き続き、第五五回アメリカ農村社会学会議が同じ場所で一六日－一九日と開催されます。さらに、連続してアメリカ社会学会が二〇日－二四日にピッツバーグ（ペンシルバニア）で開催されます。

一、事務局から会議に関する案内（参加登録、宿泊、プログラム、関連行事などについて）を送るとのことですが、日本側の要望に応じて必要部数を送るとのことですので、要望のある方は高橋明善までお申し出下さい。別途に若干の部数については確保しておきたいと思います。

二、自由参加で報告を希望される方は左記に連絡してください。

三、右記テーマに関するカッテリ会長（イタリア）の呼び掛けのステイトメントは次のようになっています。

農村社会学は農村社会を衰退させる悪影響を受動的に観察するか、新世界秩序の構築に貢献するかの選択に迫られている。農村社会学は地球的連帯の創出者としてその文化的役割を主張し強めなければならない。すべての国の農村社会学を代表する国際農村社会学会は第八回世界会議をこの課題に捧げるものである。世界大会のテーマは〝変動する世界秩序の中の農村社会〟としたい。全体会議ならびにテーマ部会は、とりわけ、多国間組織（Multi-national system）の発展と、現代の農村社会における貧困、弱者、生態系の破壊についての新しい世界主

第八回国際農村社会学会議について

第八回国際農村社会学会議（IRSA）は一九九二年八月一一日－一六日アメリカ Penn State University（ペンシルバニア）で開催されます。共通テーマは「変動する世界秩序の中の農村社会」(Rural Society in the changing world) です。

義的理解に貢献する農村農業政策に関する創造的研究を促進することを追求することになる。

四、国際学会本部は大会期間中に東、東南アジア地域のネットワークづくりを行なうための会議を開催することを今回の会議での最重点課題としています。

現在判っていることは以上の点だけですが、事務局との連絡がつきましたので、これから詳しい情報をお送りできると思います。

前回大会（イタリア・ボローニア）への参加者は約九〇ヶ国、約一〇〇〇人、報告者数四〇〇人でした。この夏開かれる国際農業経済学会よりも規模は大きいと思われます。アジア以外の地域にはすでに国際ネットワークが形成されているところが多いようです。前回アジアからの出席者は四〇人程度で少なく、出席者には孤立感があったようです。日本からの出席者は僅か三人でした。アジア地域からの出席者中の二〇人あまりでアジアのネットワークづくりの話し合いをしましたが、日本が中心的役割を果たすことへの期待をひしひしと感じました。今回はネットワークづくりが本部の方針にとりあげられることになりました。村研でも国際研究への関心がようやく高まっております。アジア各地での調査研究も量的に増大しています。この機会にできるだけ多くの人が国際学会に参加し世界とりわけアジア諸国の研究者との交流を深めることが大切と思います。

〝変動する世界秩序の中の農村社会〟の共通テーマも魅力的です。報告は英文で文章化されているものが大部分ですので、聞く力が弱くても、理解できます。多元的な世界各地の農村問題に視野をひろげ、その中で日本を再認識するいい機会です。何よりも、参加する人々が交流を求めて集まってきています。これだけ多数の世界の、とりわけ、アジア諸国の多数の研究者と短期間に知り合える機会は貴重です。言語の心配は無用です。ふるって参加されることを希望したいと思います。

（高橋明善記）